



市政のひろば4月号でお知らせした、海部医療圏7市町村（津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村）が共同で設置する『海部医療圏在宅医療・介護連携支援センター』が、本格的に事業を開始しました。

医療・介護サービス提供者からの在宅医療に関する相談などにお応えします。

**場所** 神守支所1階

**電話** 58-5989

※市民の方の相談窓口は、地域包括支援センターが担います。詳しくは、市政のひろば4月号11ページまたは市ホームページをご覧ください。

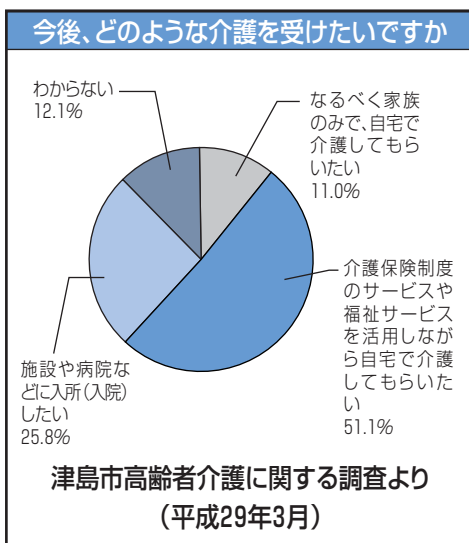
2025年

## みんなが見守り、助け合い

# 安心して暮らせるまち「つしま」

## を目指して

～津島市の地域包括ケアシステムの方向性～

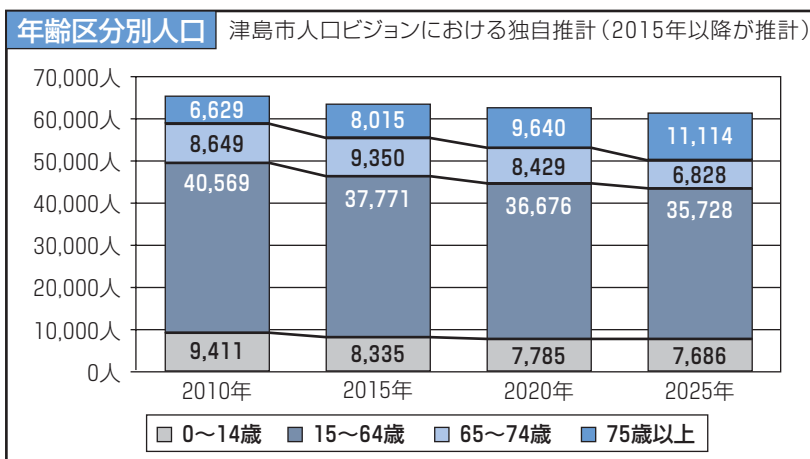


要介護認定を受けている方を対象としたアンケート調査では、6割以上の方が「自宅で介護してもらいたい」と回答しています。多くの人が自宅での暮らしを望んでいることがわかります。

「自宅で介護を受けたい」が6割

なぜ、「地域包括ケアシステム」が必要なのでしょう？

医療や介護が必要になっても、できる限り住み慣れた地域や自宅で暮らし続けたい。このような多くの人たちの願いを実現するため、医療や介護などの専門的な支援から、地域の皆さんの支え合いによる日常生活の支援まで、幅広い支援を一体的に提供する仕組みが、「地域包括ケアシステム」です。



進む少子高齢化  
市の推計では、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年には、後期高齢者が1万1千人を超えます。一方で、74歳以下の人口は減少し続けるため、2025年には後期高齢者1人を、15歳から74歳までの者4人で支えることが予想されています。2010年には、7.4人で支えている状態であったため、わずか15年で少子高齢化が大きく進むといえます。

## 津島市の地域包括ケアシステム

### システムのイメージ

下図のように、生活に適した「住まい」での暮らしを中心に、「元気なうちは介護や病気の「予防」に取り組み、日常生活の手助けが必要になったら、社会福祉協議会や町内会など地域の支え合いによる「生活支援」を行います。

かかりつけ医に通院できなくなったら訪問診療や訪問看護などの在宅での「医療」を行います。

「介護」が必要になったら、ヘルパーやデイサービスなどのサービスを提供します。

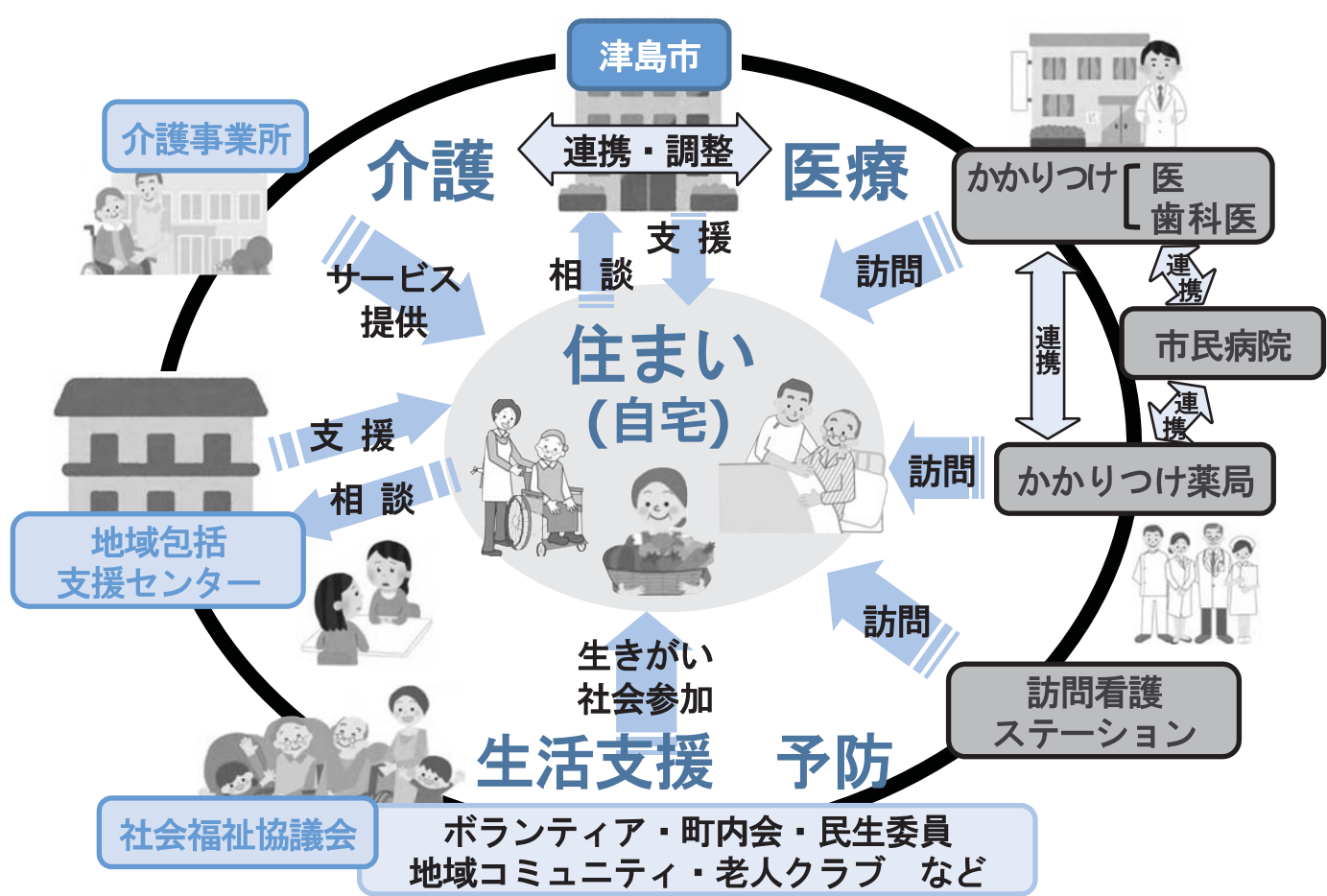
大切なことは、これら「住まい」「予防」「生活支援」「医療」「介護」が、一体的に提供されることです。

そのために、多職種・多分野の人たちが連携できる仕組みを構築しなければなりません。

### 地域包括支援センター

福祉や健康、介護に関する専門の職員が、高齢者やその家族、地域住民の方々の相談窓口となったり、介護予防の支援を行ったりしています。

地域包括ケアを推進する中核機関として、市内に3カ所設置しています。



津島市地域包括ケアビジョンを策定しました

### 策定した目的

地域包括ケアシステムでは、幅広い分野の関係者や市民の連携が不可欠です。そのためには、津島市の地域包括ケアシステムに関する共通認識が必要となります。

津島市では、平成30年3月に津島市の地域包括ケアシステムについて、「方向性」「目指す姿」「それを実現するための主要な項目」を「ビジョン」としてまとめました。

関係機関・団体や、市民の皆さんと協力し、2025年を目途に、津島市の特性に応じた地域包括ケアシステムの構築を進めます。

### ビジョンをご覧になりたい方

市ホームページに掲載しているほか、市の施設でご覧いただくことができます。

※来月号からシリーズで、津島市の地域包括ケアシステムの方向性などを紹介する予定です。

問合せ 福祉課地域包括ケアシステムG  
55-9471